

# 会 報

1992年度

## 1. 春季大会記事

1992年度春季大会は、6月21日(日)に北海道大学学術交流会館にて開催され、以下の日程で研究発表、総会、大会記念講演がもたれた(参加者36名)。

### ●研究発表(午前部)

金森 正郎(金沢大学・院):石狩炭田地方における立地企業の特性 -三笠工業団地の事例-

松井 裕治(しらかば台小学校):札幌市の社会地区分析 -因子生態研究(1975年~1985年)-

大久保雅弘(札幌稲西高校):富良野市における土産品の需要動向について

池谷 和信(北海道大学文学部):アフリカの都市の地域性 -遊牧民の立場-

### ●研究発表(午後部)

武田 泉(北海道大学・院):北海道の国立公園を支えた3人の軌跡

土井 時久(北海道大学農学部):網走・十勝地域の馬鈴薯反収格差拡大要因について

簡浦 明(北海学園大学経済学部):北海道における殖民区画村の区画形態分類と土地所有変遷について

### ●総会

1991年度事業報告、決算報告および1992年度事業計画、予算案が提出され、審議の上、それぞれ承認された。

### 1992年度決算

#### (収入)

繰越金	190,373円
会費収入	344,100
雑収入	114,890
計	649,363

(雑収入内訳:広告料 100,000 会誌売却 4,500 寄付金 1,000 貯金利子 9,390)

#### (支出)

会誌(No.66)	400,000
事務費	11,797
通信費	48,746
謝礼	10,000
大会補助	15,000
会議費	1,977
予備費	4,000
計	491,520

次年度繰越金: 157,843円

## 1992年度予算案

### (収入)

繰越金	157,843円
会費収入	300,000
雑収入	51,500
計	509,343

### (支出)

会誌(No.67)印刷費	410,000
事務費	10,000
通信費	50,000
謝礼	10,000
大会補助	15,000
会議費	5,000
予備費	9,343
計	509,343

### ●大会記念講演

演者:本会会長・羽田野正隆先生(北海道大学文学部教授)

演題:岩倉使節のイギリスにおける岩塩鉱見学 -『米欧回覧実記』の一節から-

## 2. 秋季大会記事

1992年度秋季大会は、9月27日(日)に下記の内容で行われた(参加者19名)。

巡検テーマ:「後志北部沿岸地域(余市、仁木、赤井川、小樽)の地域産業」

巡検目的:この地域は、余市、仁木各町の果樹栽培、小樽の水産加工業など、従来からの地域(地場)産業に加えて、赤井川のリゾート開発、小樽の観光開発など、近年、地域産業にも変化が見られる。巡検の目的は、これらの地域産業のほか、特徴的地形(小樽~余市の海岸地形、赤井川のカルデラ地形)や史跡も見ていくことにあったが、史跡については時間の都合で省略した(フゴッペの洞窟、環状列石など)。

コース:大通西4丁目(9:00)-国道5号線-銭函-張碓-朝里-小樽運河-長橋-忍路港-余市水産博物館-余市町市街-蘭島(12:00昼食)、12:30出発)-赤井川盆地-キロロリゾート-北海道ワイン製造K.K-小樽インターチェンジ-札幌自動車道-国道5号線-大通西4丁目(17:10帰着)

巡検案内者:羽田野正隆, 山下克彦, 岩崎一孝, 大内定,

高平順夫, 進藤賢一, 小松原尚, 武田泉, 野中健一

巡検は、中型貸切りバスにより行われ、午前9時15分出発。まず国道5号線を小樽に向けて走り、札幌の市街地の特徴と変化、銭函の鉄鋼加工関係の工場と集落、桂岡の住宅団地、張碓の集落、国道5号線やJR函館本線の由来、険しい山地の地形などを説明しながら、小樽運河に到着。小樽では、寺田稔会員より近年の東京のウォーターフロント開発問題と比較しながら小樽運河、小樽港、小樽海岸の再開発の特徴と意義についての解説をいただいた。

このあと、忍路港に到着。旧漁村と忍路湾の地形について説明があり、しばし休憩の後余市町へ向かい、余市水産博物館を見学。昼食後に赤井川村に入り、いわゆる赤井川二重カルデラの陥没説、隕石孔説の2説を紹介しながら赤井川カルデラ盆地内の畑作地帯について、近年の都市近郊型畑作地帯としての変化（とくに次のキロロリゾートとの関連）を視察した。バスは次に「キロロリゾート」に到着。キロロリゾート（ヤマハ北海道リゾート開発株）の副支配人・原岡氏より、開発の経緯と条件、他にないリゾートの特徴（自然とのバランス、保養・別荘地としての遊技施設、赤井川村農業との連携など）について詳しいお話と質疑応答をいただいた。最後に北海道ワイン株を訪ね、専務・鷲村氏より、とくに原料のぶどうの契約栽培に纏わる歴史とぶどう品種ごとのワイン製造について工場を見ながら、詳しい説明をいただいた。社長の鷲村氏は小樽実業界でも独特の経営哲学の実践で知られる。

午後5時10分、札幌大通に帰着・解散。ご案内、ご説明いただいた上記の方々、および会員案内者各位にお礼申し上げます。（大内定記）

### 3. その他

●今号は掲載論文等多数のため、書評と抄録は休載しました。

●会員消息（会誌No.66掲載以降）

入会：小川護（沖縄国際大学 〒901-22沖縄県宜野湾市宜野湾276-2 自宅住所：沖縄県宜野湾市我如古2丁目36-11 丸伊荘A-1号）、倉茂好匡（北海道大学大学院地球環境科学研究科 〒060札幌市北区北10条西5丁目 自宅住所：〒060札幌市北区北8条西7丁目中央第一公務員宿舎13-32）、酒井多加志（北海道教育大学釧路校 〒085釧路市城山1丁目15-55 自宅住所：〒085釧路市鶴ヶ岱1-6-8 教育大公務員宿舎14-1）、佐久間直樹（室蘭東高校 〒050室蘭市高砂町4丁目35-1 自宅住所：〒059登別市若草町5丁目14-1若草ハイッ102号）、中村太士（北海道大学農学部 〒060札幌市

北区北9条西9丁目 自宅住所：〒063札幌市西区八軒4条西5丁目2-30-55）、柳川健一（北海道大学大学院地球環境科学研究科・院 〒060札幌市北区北10条西5丁目 自宅住所：〒004札幌市厚別区もみじ台北4丁目5-4）、山田周二（北海道大学大学院地球環境科学研究科・院 〒060札幌市北区北10条西5丁目 自宅住所：〒065札幌市東区北19条東2丁目 木村様方）、渡辺和子（札幌聖心女子学院高校 〒札幌市中央区宮の森2条16丁目10-1 自宅住所：〒060札幌市中央区大通西10丁目 ライオンズマンション第5大通802号）、渡辺悌二（北海道大学大学院地球環境科学研究科 〒060札幌市北区北10条西5丁目 自宅住所：〒064札幌市中央区南4条西16丁目2-27-102）、渡辺兼紀（北海道大学大学院地球環境科学研究科・院 〒060札幌市北区北10条西5丁目 自宅住所：〒札幌市北区北21条西5丁目18-907 サンハイツA-210）

退会：筒浦明（死亡）鎌田毅（福井野中学校）

所属変更：石塚健夫（室蘭栄高校→本別高校 所属先住所：〒089-33中川郡本別町弥生町49）、太田真（道教育研究所→道教委釧路教育局所属先住所：〒085釧路市浦見2丁目1-1）、金子六郎（岩見沢東高校退職）、今野豊（佐呂間高校→旭川東栄高校 所属先住所：〒078旭川市東旭川町共栄15-2）、佐々木三千男（豊浦高校→羽幌高校 所属先住所：〒078-41苫前郡羽幌町南町8）、野中健一（北海道文学部→名古屋大学文学部 所属先住所：名古屋市中千種区不老町 名古屋大学文学部地理学教室）、浜本武司（道教委上川教育局→道教委宗谷教育局 所属先住所：〒097稚内市末広4丁目2-27）

●学会よりの主な会誌配布先（交換も含む）

日本地理学会、人文地理学会、東北地理学会、福島地理学会、北海道立文書館、道立図書館北方資料室、北大図書館北方資料室、北海道教育大本部図書館、札幌大図書館、北海道開拓記念館資料室、北海道地下資源調査所、古今書院編集部、シカゴ大学極東文化研究所資料室、東京都立図書館、国立国会図書館

### ◎ 学会事務局からのお願い

●会費納入のお願い

1993年ないしこれ以前の年度について会費未納の会員には、納入につき特段のご協力をお願い申し上げます。納入額は、1993年度春季大会会告通知に同封してお知らせしております。なお、行き違いですでに納入済みの際はご容赦下さい。

●所属先、自宅住所の変更があった会員には、それぞれの住所、電話番号をお書き添えの上、随時事務局までご連絡下さい。

由比浜省吾 監修

定価三六〇〇円 産業構造の急速な転換、本

# 地域構造の變容と地域開發

四架橋・自動車道の開通などがもたらした地域問題を、日本全国との関連で論述。

江波戸 昭著

定価三八〇〇円 幕末・維新期から昭和30年

# 地域構造の史的分析

代まで、産業資本の展開を中心に、府県・町村レベルで地域構造の変動を探究。

山川充夫・柳井雅也 編著

定価三七〇八円 日本経済の地域構造が、産

# 企業空間とネットワーク

業空間から企業空間へ転換し、新たなネットワーク型集積経済を生む過程を詳述。

山崎 朗著

定価二七五〇円 現代の空間再編成を明らかに

# ネットワーク型配置と分散政策

にするための理論的枠組と実証分析、産業立地政策の評価等、地域の課題を検討。

小林和正・加藤壽延 編

定価三二五〇円 国家の発展にとって人口問

# 第三世界の人口と経済開發

題は、いかなるかわりや課題をもつかを、様々なタイプの国家について分析。

菊地俊夫 著

定価三四五〇円 自立酪農経営の分析や地域の比較を通じて、酪農経営の自然・社会・経済的条件を探り、成立基盤を解明。

# 日本の酪農地域

の自然・社会・経済的条件を探り、成立基盤を解明。

水見山幸夫・岡本次郎 編

定価三六〇〇円 土地利用を動態的に把握し、

# 土地利用變化とその問題

變化の要因や人間生活へのインパクトなどを明らかにした研究成果を平易に解説

山鹿誠次著 **江戸から東京そして今**

―地域研究への招待―東京で江戸がみえる場所を選んで探る。定価三〇〇円

三井田圭右著 **中国・深圳經濟特區**

開放政策実験の場を、現地での資料と実地調査を基に詳細に述べる。定価三〇〇円

山下清海著 **シンガポールの華人社会**

方言集団の調査を通して、華人社会の變化を、国の動

米倉二郎著 **インド亜大陸遊学記**

元20年以來数回にわたる訪問の際の野帳を基に、印象・研究成果を語る定価六〇〇円

山鹿誠次著 **イギリスとアメリカ**

英語と米語のちがいが、文化の相違を中心に、両国の地域性を説く。定価二七〇円

浮田典良著 **地図表現入門**

主題図を対象に、資料の適切な表現、作成上の留意点を懇切に記す。定価八五〇円

山村順次著 **図説 日本地理**

地図・写真・分布図などから何を讀みとれるか。地理的観方を養成。定価三〇〇円

浮田典良編 **景觀を考ふる**

空中写真利用のメリットとおもしろさを、内外の事例に即して解説。定価三〇〇円

## 歴史のふるい都市群(全12巻)

山田安彦編 山崎謹哉編

- 1 東京とその周辺 定価八五〇円
- 2 関東地方の都市 定価四〇〇円
- 3 東北・太平洋側の都市 定価四〇〇円
- 4 東北・日本海側の都市 定価四〇〇円
- 5 北陸と信州の都市 定価四〇〇円
- 6 東海と周辺の都市 定価四〇〇円
- 7 近畿地方の都市 定価三〇〇円
- 8 五畿内周辺の都市 定価三〇〇円
- 9 瀬戸内の都市 定価三〇〇円
- 10 山陰・南四国の都市 定価三〇〇円
- 11 北九州の都市 定価三〇〇円
- 12 南九州の都市 定価三〇〇円